

師走、街は慌ただしさを増しています。あれもせなあかん、これも・・・と時間に追われていませんか。少しゆっくりと静かな夜を過ごしてみませんか。そっと目を閉じて一年を振り返りたいですね。



2019年も師走に突入、街にはジングルベル、御堂筋はイルミネーション、そして中之島の公会堂はじめ、歴史的な建造物は美しくライトアップされてます。しかし、そんなみかけの繁栄の一方で、私たちの毎日はどうでしょう。消費税導入後、景気は冷えています。クリスマスも年末もないよ、と仕事に追われる方も多々おられます。憲法第25条には「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」とありますが、ものの豊かさに反比例して、こころの豊かさが失われつつありますね。静かに足元をみつめ、来たる2020年に備えませんか？

【ニュース】

1. 診療日の変更をお知らせします。

12月13日(金曜日)～19日(木曜日) 米本休診
1月6日(月曜日) 巽休診 (代診は三谷)

2. 保険外しのニュース 続編

12月1日の産経新聞朝刊一面に「市販類似薬を保険外 医療費抑制へ政府調整」と大きな見出しで、前号で緊急掲載させていただいた内容の記事が載りました。日経は「薬価下げ 1000億円抑制」のみでしたが、財務省のHPに掲載され続けていることの表われです。気持ちを引き締めていきたいと思えます。

3. インフルエンザワクチンの接種が始まりました(再掲)

実施：2019年10月21日(月)～2020年3月末(助成期間は2020年1月末まで)

当院での費用(自己負担額)は次のとおりです。

1) 堺市在住の65歳以上の方(接種日時点)

自己負担額 1,500円

2) 13歳から64歳以下の方および堺市外の65才以上の方 → 接種回数1回 自己負担額 3,500円

3) 3歳から13歳未満の方 → 接種回数2回

1回目、2回目ともに 3,500円

なお対象の方で、市民税非課税の方は自己負担金が免除です(介護保険料納入通知書を窓口にご提示ください)。

【ミタクリ映画サロン 男はつらいよ 50作目 おかえり寅さん】



男はつらいよシリーズが20年以上の歳月を経て帰って来ます。寅さんこと渥美清が亡くなって23年、最後の作品は95年公開の48作「寅次郎ハイビスカスの花」でした(49作目は97年公開の「寅次郎ハイビスカスの花特別編」でした)。聞くところによると、肝臓の肺転移が見つかり、映画の撮影では自身の出番以外はずっと寝ていたそうです。役者魂という薄っぺらくなりますが、舞台に出るときと出ないときとはそんなに違うんや・・・改めて感動しました。要は、いかに芸を磨いて私たちに披露してくれるかどうかでしょう。寅さんも50を過ぎ、さすがに自身の恋愛から甥の満男くんの指南役を務める頃から「寅さん年とったなあ・・・」と思いました。思いを寄せてもなかなか言葉にできない、そして相手がこっちをふり返りそうになると慌てて身を引く、そんな姿にイライラすることもありましたが、やっぱり観てしまう。そういえば寅さんの映画を誰かと一緒に観に行ったことはなかったなあ・・・あ、いえ、たった一度ありました。この48作目を正月明けに千日前に観に行ったとき、上映を待っていると前から3列目によく知ったひとが座りました。「あれ？親父やないか！」もちろん彼は私には気づいていませんでしたが、なんとも不思議な気持ちで観ました。終了後、声をかけ「何やったらもどさずに食べれる？」とすでに食道がんの症状が出ていた父とつかの間のひとときを過ごしました。特別な話をした記憶も、寅さんを語り合ったわけでもありません。でもお互いに同じ映画を同じ上映時間に観たのはちょっと良かったかなと思います。この12月27日から公開される50作目、今の私には何が映るのか、とても楽しみにしています。これまで寅さんにあまりご縁がなかった方々にも是非映画館に足を運んで下さいね。

【ヤギの由無し事（よしなしごと） 米本千春】

（小藪さんのポスター内容です） まてまてまて 俺の人生ここで終わり？ 大事なこと何にも伝えてなかったわ それとおとん、俺が意識ないと思って隣のベッドの人にずっと喋りかけてたけど 全然笑ってないやん 声は聞こえてるねん。はっず！ 病院でおとんのすべった話聞くなり 家で嫁と子どもとゆっくりしときたかったわ ほんまええ加減にしいやあーあ、もっと早く言うといたら良かった！こうなる前に、みんな「人生会議」 しとこ



今回は11月25日以降のホットな話題。このポスターをご覧になられましたか。吉本興業の「小藪 千豊（こやぶ かずとよ）」さんが、鼻に酸素チューブをつけた病人の姿で感じた言葉が書かれています。PR内容は、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）、愛称は「人生会議」。2018年12月と今年1月のミタクリ通信で触れた話題です。厚労省作成のリーフレットでは、『もしものときのために、あなたが望む医療やケアについて、前もって考え、繰り返し話し合い、共有する取組』としています。人生会議の日は11月30日（いい看取り・看取られ）です。皆さんの立場はいろいろなので、このポスターの感じ方は様々でしょう。それが当たり前なんです。みんな違うからACPを、と言っているのだと思います。ACPの普及啓発のため1年前に「人生会議」の愛称が付けられました。実は小藪さんは愛称選定委員でした。お母さんを悪性リンパ腫で55歳で亡くし、生前にしてあげられなかった後悔があったそうです。お母さんが亡くなる4時間前「プリンが食べたい」言ったので、買いに行き戻ると…お母さんは食べられる状態ではなかった。親孝行をするように後輩達に言っているとか。こんな背景があつて選定委員になったのではと思います。なお、本エピソードは「プリン」という歌になっています。ACPは大事だと思います。が、やみくもに進めるのはいかがなものかと感じます。切羽詰ましていない一般の人には知ってもらう、広める。身に染みる状況の人には、具体的に考え、話し合ってもらう。私は普段の会話がACPのタネと思っています。どんな考えの方なのか、どうしたいと思っているのか。口に出すなど表現しないと伝わりません。こっそり、エンディングノートを書いて、仏壇の引き出しに入れておく。後からご家族が見つけて、「こんなん知らなかったわ！」実際の話です。思いを伝えておけば、ご家族が全責任をとらずに、気持ちも楽になること、あります。でも、考えたくない、話したくないという気持ち自体も立派なACPと思うのです。リーフレットにはこうあります。『このような取組は、個人の主体的な行いによって考え、進めるものです。知りたくない、考えたくない方への十分な配慮が必要です。』このポスターは、対象や内容など、いろんな面でマズかったかもしれません。ただ、一般の人に「人生会議」を知ってもらうきっかけ、問題提起になったと思いたい。皆さん自身はどう感じましたか？ どうしていきましょうか？ □生きるためのACP □人として関わるACP □いろんな場でつないでいくACP

参考：ゼロからはじめる人生会議 <http://www.med.kobe-u.ac.jp/jinsei/>

【外来担当医一覧 2019年12月現在】

予約電話番号：072-260-1601

診察受付時間	月	火	水	木	金	土
午前 (9:00-11:00)	巽 米本	米本 三谷	巽 三谷	巽 米本	巽 三谷	三谷
午後 (14:00-16:00)	巽(予約) 米本(訪問診療)	巽(訪問診療)	巽(予約) 三谷(訪問診療)	巽(訪問診療)	巽(予約) 米本(訪問診療)	
夜診 (16:30-18:30)		三谷	三谷		三谷	